

# 18世紀から19世紀のイギリスの労働者の社会参加について

## －社会への参画に関する意識を高める－

愛知県立安城南高等学校

教諭 立松 和也

### 1 はじめに

「シティズンシップ」とは、「多様な価値観や文化で構成される社会において、個人が自己を守り、自己実現を図るとともに、よりよい社会の実現に寄与するという目的のために、社会の意思決定や運営の過程において、個人としての権利と義務を行使し、多様な関係者と積極的にかかわろうとする資質」とされている。また、同じく「成熟した市民社会が形成されていくためには、市民一人一人が、社会の一員として、地域や社会での課題を見付け、その解決やサービス提供に関する企画・検討、決定、実施、評価の過程にかかわることによって、急速に変革する社会の中でも、自分を守ると同時に他者との適切な関係を築き、職について豊かな生活を送り、個性を発揮し、自己実現を行い、さらによりよい社会づくりにかかわるために必要な能力を身に付けることが大切」ともされている（経済産業省「シティズンシップ教育宣言」より）。

一方で、現行の学習指導要領において地理歴史科は、「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う」ことを目標としている。また、世界史Bでは、「世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」ことを目標としている。

「国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養い」、「主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」という地理歴史科、さらに世界史の目標は、シティズンシップ教育の目指すところと同様であると考えられる。

### 2 研究のねらい

社会を取り巻く問題は様々である。労働問題・住宅問題・公害問題・失業問題・農村問題・青少年問題・婦人問題など、広く社会の欠陥・不合理・矛盾から生ずる諸問題がある。これらの問題に直面した際、どのように解決を図るかについて、その手段を知っていることが必要ではないだろうか。本実践では、18世紀から19世紀のイギリスの労働者の置かれた労働環境、生活環境を題材として、自らの環境を向上するためにどのような手段があるかを考察することを目標とした。このことを通じて、シティズンシップ教育を発揮するために必要な政治分野での活動に必要な知識を深めさせるとともに、社会への参画に関する意識を高めさせ、さらには自己・他者・社会の状態や関係性を客観的・批判的に認識・理解するためのスキルの習得を目指した。

### 3 単元の目標・評価計画・指導計画

#### (1) 単元の目標

18世紀後半に始まったイギリスの産業革命により、工業生産が飛躍的に向上した。それとともに従前とは環境が一変した。特に労働者の労働環境と生活環境は劣悪を極めた。今回、その環境について

記した資料を通して、当時の人々の置かれた状況について考察する。さらに、その状況を向上させようと考えた人々によるチャーティスト運動などの諸活動について知る。また、イギリスの民衆の政治参加の歴史や議員の立場からの選挙について考察させて、選挙権のもつ意義を生徒に理解させたい。これらのことを通じて、シティズンシップ教育の能力の育成をはかりたい。

## (2) 単元の評価計画

シティズンシップを發揮するために必要な能力	評価の観点	評価規準	評価方法
知識	知識・理解	・社会に参加する方法について理解することができる。	ワークシート
スキル	思考・判断	・資料（当時の風刺画）などを通して、当時の人々の置かれた状況を読み取るとともに、それらをまとめることができる。 ・選挙権を選ばれる側の視点から考えることを通じて、その重要性について考えることができる。	ワークシート 発表
意識	関心・意欲・態度	・社会への参画に関する意識を高めることができる。	ワークシート 発表

## (3) 単元の指導計画（3時間）

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
第1時限	・イギリスの産業革命の進展	・相次ぐ機械の発明により「世界の工場」と呼ばれるに至ったイギリスの産業革命について理解を深める。	・生産手段が「道具」から「機械」に変化したこと、及び「道具」や「機械」とは何かを考えさせる。
第2時限 (本時)	・イギリスの労働環境と生活環境	・18世紀から19世紀初めのイギリスの労働環境と生活環境について理解を深める。そして、その状況を向上するためにとられた人々の行動について考察するとともに、どのような歴史であったか理解する。	・資料を通して当時の社会情勢の追体験をさせる。
第3時限	・イギリスの選挙法改正	・民衆の社会参加の方法の一つである選挙権について取り上げ、選挙権の拡大がどのような意味をもつかについて理解を深める。	・選ばれる側の立場から、投票行動についての在り方を考えさせる。

#### 4 本時の目標・評価計画・学習指導

##### (1) 本時の目標

18世紀から19世紀のイギリスの労働環境・生活環境について、当時の状況を知るとともに、その背景及び生活を向上させる手段について考察する。そして、実際にはどのように環境が改善されたかを理解する。また、それらの学習を通して、シティズンシップ教育の「意識」「知識」「スキル」の能力、とりわけ自己・他者・社会の状態や関係性を客観的・批判的に認識・理解するためのスキルの習得と社会への参画に関する意識を高めることをねらいとする。

##### (2) 本時の評価計画

評価の場面	能力	評価の観点	評価規準	評価方法
評価1	<p>【スキル】</p> <p>自己・他者・社会の状態や関係性を客観的・批判的に認識・理解するためのスキル</p>	思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風刺画などの資料より、当時の人々の労働環境や生活環境を読み取るとともに、それらを自分の言葉でまとめることができる。</li> <li>・当時の人々の様子を踏まえて、生活を向上するためにどのような活動を行うべきかを考えることができる。</li> <li>・労働者側の立場だけでなく、資本家側の立場からも考えるなど、多面的に考えることができる。</li> <li>・社会を改善する方法について考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート (教材3 問1)</li> <li>・ワークシート (教材3 問2)</li> <li>・ワークシート (教材3 問3)</li> </ul>
評価2	<p>【スキル】</p> <p>他者とともに社会の中で、自分の意見を表明し、他人の意見を聞き、意思決定し、実行するためのスキル</p>	思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見をまとめ、積極的に発表することができる。</li> <li>・他の意見を聞いた上で、自分の意見をまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート (教材4 問4・問5・問6)</li> <li>・発表</li> </ul>
評価3	<p>【知識】</p> <p>公的・社会的な分野での活動に必要な知識</p>	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18世紀後半から19世紀初めのイギリスの労働者が生活を向上させるために行った活動を理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート (教材5)</li> </ul>

評価4	【意識】 社会への参画 に関する意識	関心・意欲 ・態度	・当時のイギリスにおける労働者の行動や、今日の我が国における非正規雇用労働者の問題を通して、社会への参画に関する意識を高めることができる。	・ワークシート (教材4 問6・問7)
-----	--------------------------	--------------	---	---------------------------

(3) 学習指導

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 5分	・イギリスの産業革命	・イギリスの産業革命による社会の変化について理解する。		
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀イギリスの労働問題・生活環境</li> <li>・当時の状況を変えるための労働者の活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀のイギリスの様子を描いた資料(教材1・2)を参考にして、この当時の社会全体の様子、資本家及び労働者が置かれた状況、労働者の生活環境について考察する。</li> <li>・考察した内容を発表する。</li> <li>・資本家は労働者をなぜこうした状況に置いていたのか考察する。</li> <li>・労働環境・生活環境を向上させるには、どうしたらよいかを考えさせる。</li> <li>・グループで話し合い、他の人の意見を聞くとともに、状況を向上させる方法について意見をまとめる。</li> <li>・グループごとに意見を発表し、その意見を自分でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて資料の説明をする。</li> <li>・話し合いが進まないグループに、助言をする。</li> </ul>	<p>評価1</p> <p>評価2</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の労働者の活動について、プリント教材5を利用して理解する。</li> <li>・ヨーロッパの諸革命の影響や工場法制定を踏まえて、人々の社会を向上させようとする動きについて理解する。</li> <li>・労働者の活動の中で、社会を向上させる手段としての選挙の役割を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表された意見を念頭に、実際の歴史について説明する。</li> </ul>	評価3
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の歴史の展開を理解した上で、自身がこの時代のイギリスの労働者であると仮定して、どのような行動をとるか意見や感想をまとめる。</li> <li>・我が国の非正規雇用労働者の雇用問題について、どのように行動するかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を踏まえて意見をまとめるように助言する。</li> </ul>	評価4

## 5 成果と課題

ワークシートを分析することにより、シティズンシップ教育の各種の能力が高まったかを検証をした。

### (1) スキル

最初に自己・他者・社会の状態や関係性を客観的・批判的に認識・理解するためのスキルを見るため、風刺画などの資料より、当時の人々の労働環境や生活環境を読み取るとともに、それらを生徒が自分自身の言葉でまとめることを目指した。以下は、生徒の記述の主なものである。

#### 問1 【資本家の様子】

- ・労働者に比べて、裕福な暮らしをし、時間の余裕もある。そのため、平均寿命も労働者より2倍以上長い。
- ・優雅な暮らしをしていて、何もしなくてもお金が入ってきそうな感じ。
- ・労働者が頑張って働いているのも知らず、優雅に過ごしていて、何不自由ない生活をしている感じ。

### 【労働者の労働環境】

- ・一日中、十分な休みも取れずに働いて、低い給料なのでお金もない。汚い労働環境。
- ・汚れるところで狭くて動きづらそうな場所。
- ・小さな子供にまで仕事をやらせている。
- ・過酷で平均寿命からも分かるとおり、身を削って働いている。

### 【労働者の生活環境】

- ・栄養がつきそうなものを食べられずたくさんの人が一つの狭いところに集まって寝たりしている。
- ・みんなやせ細っていて今にも倒れそうな感じ。いつも生きるか死ぬかぎりぎりの状態。
- ・お金がないので食べるものもないし、衛生的にもよくなさそう。
- ・疲れている感じ。狭い。汚い。

### 【イギリス社会全体の様子】

- ・資本家の暮らしのために労働者が働いているような感じ。
- ・資本家は自分の食べたいものを食べたり、自分のしたいことをしてとても自由な生活をしている。でも労働者はちゃんと食事できないし、働いているだけって感じですごく階級社会な感じで全く平等であるところがない。
- ・金持ちと労働者では天と地ほどの差がある。資本家は生活に困ることはなさそうだけど、労働者は今日食べるものにも困っていそう。

これらの記述のように、多くの生徒が資料についておおむね読み取っていた。

次に、問2で資本家はどうか考えていたか、問3で当時の人々の様子を踏まえて、生活を向上するためにどのような活動を取るべきかを考えさせた。以下は、生徒の記述の主なものである。

問2 資本家は労働者のこの状況をなぜ改善しようとしなかったのでしょうか。

- ・自分の利益を優先させたかった。
- ・自分たちの裕福な暮らしを続けるためには、安い金で働いてくれる労働者が必要だから。
- ・自分の利益を減らしたくなかったし、労働者は過酷な条件でも仕事をするから。

問3 あなたが、この当時の労働者であったとします。この状況のイギリス社会を変えるためには、どうしたらいいと思いますか。

- ①同じように苦しむ人たちと団結して、資本家に今の生活の厳しさを暴力を使ってでも訴える。
- ②自分が国のトップになって、労働者の状況を変える。
- ③みんなでストライキをする。
- ④みんなで働くのをやめる。

問2では、おおむね資本家の心理を読み取っているようであった。

問3は全体の意見をまとめると、ストライキをすると答えた生徒の割合は約33.3%となった。政治参加と答えた生徒の割合は、5.8%であった。また、資本家に抗議する、話し合う、革命をするといった回答も見られた。一方で、他の国へ逃げるといった記述もあった。

ワークシートへの記述の際、表現が不足している生徒もいたが、個別に指導した。労働者の生活環境の設問で、「汚い」と一言だけ書いている生徒がいた。その生徒には「何が汚いのか」と質問をして、他の人が回答を見たときに分かる内容にするように指導を行った。また、全体に対しても自分だけ理解できるのではなく、他人が読んで分かるような文を書くように指導を行った。

次に、他者と共に社会の中で、自分の意見を表明し、他人の意見を聞き、意思決定し、実行するためのスキルを見るために、問3の意見をグループ内で話し合わせて、その後発表させた。以下は発表された内容の主なものである。

- |             |             |                     |
|-------------|-------------|---------------------|
| ・ストライキを起こす。 | ・自分が資本家になる。 | ・社会主義を唱える。          |
| ・国王に訴える。    | ・他の工場で働く。   | ・(暴力をしてでも) 資本家に訴える。 |

グループ内の討議は、最初はとまどう様子も見られた。しかし、すぐに慣れて活発に自分の意見や感想を言った。代表者が発表を行っている際も、「そういう考えもあるのか」と思わず声に出す生徒もいた。

## (2) 知識

教材5で、18世紀から19世紀のイギリス労働者の動きを、講義形式で説明をした。評価項目に設定したが、知識の獲得につながったかは、今回は評価できなかった。

## (3) 意識

社会への参画に関する意識を見るため、改めて問6で行動の取り方を尋ねた。なお、問3と問6における①～④の回答はそれぞれ同一人物のものであり、その変容を見ることができる。なお、変容を見ることにより、「意識」だけでなく、他者とともに社会の中で自分の意見を表明し、他人の意見を聞き、意思決定し、実行するためのスキルの能力も見ることができると考える。

### 問6

- |  |
|--|
| ①労働組合を結成してストライキをする。でも将来的なことを考えると政治参加が一番賢い方法だと思う。 |
| ②ストライキを起こして問題解決を図る。できなければ、国のトップになる。              |
| ③他の国へ逃げる。又は政治に参加する。                              |
| ④みんなで団結してストライキを起こす。                              |

最終的には 53.3%の生徒がストライキを起こすという意見であった。ストライキと答えた生徒に、理由を尋ねたところ、一番手っ取り早い手段と考えたとのことであった。また、ストライキを合法的な手段で成功しやすいと考えている生徒も多かった。指導者としては、政治参加の回答が多いことを期待したが、それを記述したのは 19.1%と少なかった。しかし、授業の結果、政治参加と答えた生徒が1割以上も増えたことは成果であると考えられる。

最後に、問7で現代の非正規雇用労働者の雇用問題について考えさせた。以下は生徒の記述の主なものである。なお、問3・問6・問7における①～④の回答はそれぞれ同一人物のものである。

### 問7

- |                                     |
|-------------------------------------|
| ①同じ悩みをもつ人たちと話し合っ、会社とも話をする。          |
| ②政治家に精一杯、自分の意見を話して改善してもらおう。         |
| ③他の仕事を探して、そこで正社員になる。                |
| ④自分のできることをやって少しでも正社員として雇用されるように頑張る。 |

複数の生徒が「正社員に雇用されるように(自分が努力して)頑張る」と答えていた。一方で現代は勤め先も多いためか、他の仕事を探すと答える者もいた。問6の時代と問7の現代では、時代背景・環境などが異なるために、こうした回答となったと考えられる。「他の仕事を探す」といった答えもあったが、自分の置かれた状況から逃げずに取り組んでいこうという考えが多かった。「働かない」「犯罪をする」といった回答はなく、合法的な手段で取り組んでいこうという姿勢が見られ、社会に参画する意識が見られた。

#### (4) 全体を通じて

今回の実践を通して、シティズンシップ教育の「スキル」の面では、生徒たちは題材を基に考察し、グループで討議をし、他の生徒との意見を交換することによりその能力が高まったと考えている。特に他の生徒の考えをグループ討議を通じて知り、多くの影響を受けたように感じた。「知識」については、今回の実践では獲得できたかを検証できなかったと考えている。また、「意識」の面では、社会への参画に関する意識を高めることができたと考えている。問6・問7の設問に対する答えで、「今の仕事をやめて、他の仕事を探す」と考える生徒が少なかった。それに対して「ストライキ」を起こす、「自分が努力する」などまず自分で行動をしていくと答える生徒が多く、頼もしく感じた。今のおかれた状況を何とか改善していき、社会に参画する意識の高い生徒が多いと感じた。今回の授業を受けて、自分で行動することが、立ちゆかなくなるときに、次に政治参加という選択肢があると考えてくればと感じた。こうした点より、「知識」については今回の実践だけで十分に検証できなかったが、シティズンシップ教育の求める各種の能力が高まったと考えている。

#### 6 おわりに

今回の実践を行うまでは、グループ討議を授業で取り入れたことがなく、沈黙に終わらないかと不安であった。しかし、その不安をよそに、授業では活発にグループ討議が行われたのが、印象的であった。また今回の実践は3年生を対象に行った。本年度1年生と3年生の世界史を教えているが、ワークシートの記述を読むと、1, 2年次の地理歴史科、公民科の学習内容を踏まえた記述などもあり、素直に「さすが3年生」と感じた。

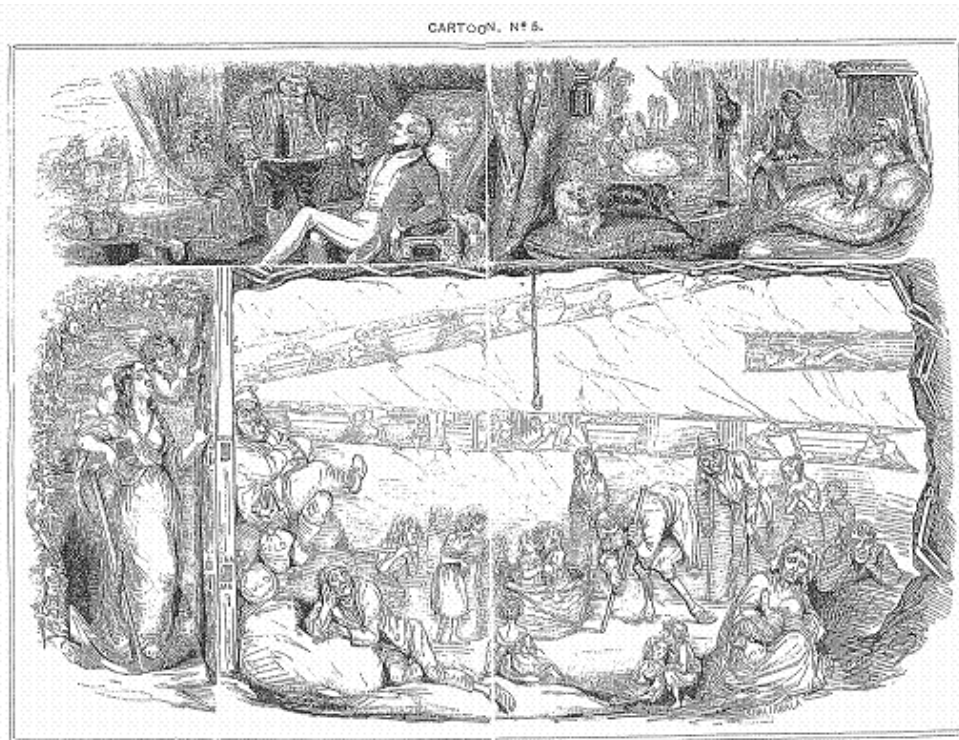
世界史を教える際に、過去の事象と現代の事象の関係性に気付かせ、理解させるかが重要であると私は考えている。このことに、今回の実践の「シティズンシップ教育」の求める能力も加えて、これからの日々の授業に取り組んでいきたい。

#### 【参考文献】

- 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 1999年  
経済産業省 『シティズンシップ教育宣言』 2006年  
鈴木崇弘他 『シチズン・リテラシー』 2005年 教育出版  
小玉重夫 『シティズンシップの教育思想』 2003年 白澤社  
松村昌家編 『「パンチ」素描集—19世紀のロンドン』 1994年 岩波書店  
角山榮 『産業革命と民衆』 1975年 河出書房新社  
エンゲルス 『イギリスにおける労働者階級の状態 上・下』 2000年 新日本出版



## 資料① 「資本家と労働者」



【出典：『パンチ』素描集－19 世紀のロンドン』1994 岩波書店】

## 資料② 19 世紀前半の労働者の話

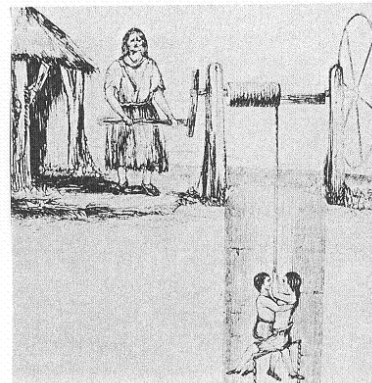
（靴下編工の話）

おれたちは長い長いあいだ肉を食べたことはない。肉の味はほとんど忘れてしまった。（中略）おれは子供たちがいつまでもパンをほしがって泣きわめくのを聞いていられないし、聞きたくもない。だからまともな方法でパンを手に入れる最後の手段をやるのだ。先週の月曜日におれは二時ごろ起きて、ほとんど夜中まで働いた。他の日でも朝六時から夜十一時や十二時まで働いている。こんなことはもういやだ。おれは死にたくない。いまでは毎晩夜十時に仕事をやめ、失われた時間を日曜日に取り返しているのだ。（\*日曜日はキリスト教にとって安息日であり、日曜日に仕事することはタブーとされている。）

資料③ リヴァプールの平均寿命 (1840 年)

リヴァプールの平均寿命 (1840 年)	
上流階級 (ジェントリ, 専門職)	35 歳
商人及び裕福な手工業者	22 歳
労働者, 日雇い, 召使い層	15 歳

資料④ 少年と女性労働者



【出典：「産業革命の群像」1971 清水書院】

資料⑤ 汚れたテムズ川神 (\*テムズ川=ロンドン市民の水源となっている川)



【出典：「『パンチ』素描集-19世紀のロンドン」1994 岩波書店】

問 1 資料①～⑤は 18 世紀後半から 19 世紀初めのイギリスの資本家と労働者の暮らしの風刺画などです。これらから、この時代のイギリスはどんな様子であったと推測されますか。資本家の様子、労働者の労働環境・生活環境、イギリス社会全体の様子の 3 点についてまとめなさい。

資本家の様子

労働者の労働環境

労働者の生活環境

イギリス社会全体の様子

問 2 資本家は労働者のこの状況をなぜ改善しようとしなかったのでしょうか。

問 3 あなたが、この当時の労働者であったとします。この状況のイギリス社会を変えるためには、どうしたらいいと思いますか。いくつかの方法を考えてください。

問 4 問 3 のイギリス社会を変える方法について、グループで討議して出てきた意見をまとめなさい。

問 5 発表された意見をまとめなさい。

問 6 では、発表された意見及び実際の歴史上の出来事をふまえて、この当時のイギリス社会に生きていたら、どのような行動をしますか。理由を含めてまとめなさい。

問 7 現代にも非正規雇用労働者の雇用問題が深刻です。自分が雇用問題に直面した場合、どのように行動しますか。

3年 \_\_\_\_\_ 組 \_\_\_\_\_ 番 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

# 18 世紀後半から 19 世紀初めのイギリスの労働者の動き

教材 5

## 背景

イギリスの労働環境・生活環境の悪化

フランス革命（1789 年）・七月革命（1830 年）の影響

年	人数
1805 年	4605 人
1810 年	5146 人
1820 年	13710 人
1830 年	18107 人
1840 年	27187 人
1841 年	27760 人
1842 年	31309 人

### 1 犯罪 の増加

工業の拡大とともに犯罪が増加している。

社会秩序への抗議の意味が込められていたかもしれない。

### 2 ラダイト運動（機械打ち壊し運動）

労働者たちが組織的に自分たちを失業に追い込む（追い込んだ）原因となった機械や工場を打ち壊した。

同時に、機械の発明者たちも訴訟や脅迫に悩んだりした。

### 3 労働組合 を結成

労働組合を結成して資本家と対決した。ストライキ を実施した。

### 4 社会主義思想 の成立

### 5 政治参加（普通選挙 制度の要求）

#### (1) 背景とチャーティスト運動

第1回選挙法改正（1832 年）で、地主のほか都市の産業資本家に選挙権が付与される。

工場法の制定（1833 年）

労働者・特に 子ども の健康の保証を、工場主 ロバート＝オーウェン が、政府に説き始め、1833 年に、9 歳から 13 歳までの子どもの労働時間を週 48 時間または一日最高 9 時間に、18 才未満のすべての人の 夜間労働 を禁止した。

↓

#### チャーティスト運動

「人民憲章」を掲げる。内容は次の 6 つ

- ・普通選挙権
- ・議員への歳費支給
- ・平等な選挙区の設定
- ・議会の毎年改選
- ・秘密投票（買収や脅迫を避けるため）
- ・選挙権ある者に被選挙権を与える。

↓

1848 年革命の影響でチャーティスト運動が激化するが、次第に沈静化

(2) 第二回選挙法改正（1867 年） 工場労働者に参政権

(3) 第三回選挙法改正（1884 年） 農業労働者に参政権